奈良県・中国ゆかりの地紹介

第一弾　　平城京

今年は、奈良県と中国陝西省が 2011 年に友好提携を締結して 10 周年を迎える記念の年です。これから奈良県内にある奈良と中国とのゆかりの地、特に陝西省とのゆかりを中心にご紹介します！

平城京は、当時、もっとも文化の進んでいた唐の都、長安をモデルに作られました。長安は奈良県の友好提携先である陝西省の省都、西安の昔の名称です。平城京は、①宮殿の位置　②園林を作る宮殿建設の思想　③機能毎の建築物の配置　④唐三彩の技術を導入した奈良三彩や緑釉瓦の発見など、様々な分野で中国の影響が色濃く残るゆかりの地と言えます。

784 年の長岡京への遷都後に平城京は廃都となり、衰退してしまいましたが、1952 年に、宮殿地区である平城宮跡が特別史跡に指定され、1959 年から現在に至るまでの約 60 年間にわたり、継続的な発掘調査が行われています。1998 年には、平城宮跡を含む「古都奈良の文化財」がユネスコの世界文化遺産に登録されました。

2008 年の胡錦濤（フー・ジンタオ）国家主席（当時）の来県時に奈良県に贈呈された記念品（鑑真和上像、友誼の舟）は、県庁の 4 階廊下に展示されていましたが、2018 年 3 月 24 日に「平城宮跡歴史公園」の朱雀門ひろばが開園したのをきっかけに、天平うまし館に移され、より多くの方々が見学できるようになりました。

現在、平城宮跡歴史公園の朱雀門ひろばには、長安に派遣された遣唐使らが乗った「遣唐使船」のレプリカが設けられています。

2020 年秋、私は平城宮跡歴史公園で行われた「全国一斉凧揚げイベント」に参加しました。1300 年が経った現在でもたくさんの方々の憩いの場として残されていることは非常に素晴らしいと実感しました。

（奈良県国際交流員　呉　春蘭）

復原遣唐船

朱雀門ひろば

2020 年全国一斉凧揚げイベント